

## 高令者労働力の活用による肉用牛繁殖経営

誌名	島根県立畜産試験場報告
ISSN	03897427
著者	岩瀬, 伸夫 田中, 敬 岸本, 定朝
巻/号	20号
掲載ページ	p. 14-16
発行年月	1984年

# 高令者労働力の活用による肉用牛繁殖経営

## 一 老人牛飼奨励事業における意向調査 一

岩瀬伸夫 田中 敬 岸本定朝

今日の我が国の厳しい農業の情勢下においては、高齢者の農業労働力の活用は極めて重要な存在となっているが、この農業高齢者労働力が実際にはどの様に活用され、その効果がどの様であったかは必ずしも明確にされているとはいえない。そこで、この調査は農林水産省農林水産技術会議の総合助成の補助金を受けて、島根県の「老人牛飼奨励事業（65才以上で繁殖雌牛を飼養する者には月額3,000円の奨励金を出す）」について飯石郡赤来町を対象にその概況調査を行ったものである。

### 方 法

調査対象は飯石郡赤来町に居住する者で、その対象は老人牛飼奨励事業に参加している65才以上の高齢者で肉用繁殖牛を飼養している農家である。

牛飼奨励金は赤来町で58年度では90名が受け取っているが、このうち18名を任意に抽出して調査を行った。なお、調査は昭和58年12月に行ったものである。

### 成 績

#### 1. 赤来町における肉用牛繁殖経営の概況

赤来町においても他の地域と同様に農業就業人口が年々減少しつつあり、これによって農業従事者の高齢化が進んできているものの依然として農林業への依存度が高い。この地域は農業粗生産額（1戸当 639,000 円）は島根県の平均（1戸当 427,000 円）以上にあり、また稲作への比重が減少する傾向にある一方で、畜産への期待は極めて大きい近年その伸びなやみ傾向が見られる。とくにこの赤来町においては肉用牛の繁殖経営が農業振興の中樞をなしているだけに繁殖農家にとっては近年の子牛価格の低迷は極めて深刻な課題である。

赤来町においては、繁殖牛は58年3月末現在で1,730頭が374戸の農家で飼養されており、このうち老人牛飼奨励事業に参加している高齢者（65才以上）は90名、90戸で、肉用牛飼養農家全体の24%に相当している。

老人牛飼奨励事業に参加している高齢者90名の中から任意に抽出した18名について繁殖経営の実態について調査したが、17頭飼養農家を除いた17戸の平均飼養頭数は2.59 ± 0.94 頭であった。また、この17戸の58年度の子牛販売による粗収益は1戸当り737千円、また1頭当りの子牛販売価格は290千円であった。なお、17頭を飼養している1戸の多頭飼養農家の粗収益は600万円であった。

一方、1戸当りの水田耕作面積（借地を含む）は17頭飼養農家1戸（耕作面積310 a）を除く他の17戸についてみると、1戸当り平均107.8 ± 33.5 aであり、これから得られる稲わらはすべて家畜への利用である。

第1表 繁殖経営の概況

平均飼養頭数	*2.59 ± 0.94 頭
1戸当り平均粗収益	*737 円
1頭当り平均販売価格	290 円
1戸当り水田耕作面積	**107.8 ± 33.5 a
* 17頭飼養の農家1戸を除外した17戸の農家の平均値	
** 17頭飼養農家310 aを除外	

## 2. 現況と将来の経営方向

18戸の農家の経営状況について意向調査を行ったところ、日常の飼養管理については「とくに労力を必要としない時以外は自分で飼養管理を行う」者が全体の44%で、「家族の人が概ね日常的に手伝っている」と同率であった。

老人牛飼奨励事業については「この事業があるのでたのしみが増えた」が55.6%、「奨励金が増額になれば増頭してもよい」が50.0%となっており、そして更に「今後もこの事業を継続してもらいたい」が83.3%であった。また、「この事業に満足しているか」という問には僅かに22.2%が満足と答えただけであった。

一方、放牧地と規模の拡大の関係についてみると、「放牧地がもっとあれば増頭したい」とする者は11.1%で、放牧地の不足が増頭に直接的に結びつくことは比較的低い様に思えた。

また、稲わらの確保について「確保が困難である」が55.6%で、半数以上の農家が牛を飼養しながら稲わらの確保に困っていることは今後の肉用牛振興の上で重要な課題であり、更に今後コンバインの普及が進むが、これが逆に稲わら不足に追い打ちをかける結果になることも必至であり、肉用牛或は酪農経営に与える影響が極めて大きいものと推察される。

第2表 肉用牛繁殖経営農家アンケート調査

調 査 事 項	回 答 率
日常の飼養管理について	
1. 家旅のだれかが日常的に手伝っている	44.4%
2. とくに労働力を必要とする時以外は殆んど自分です	44.4
奨励事業について	
1. この事業に満足している	22.2
2. 今後もこの事業を継続してもらいたい	83.3
3. この事業があるのでたのしみが増えた	55.6
4. 牛が好きでこの事業があってもなくてもやめられない	44.4
5. 補助金の増額があれば増頭する	50.0
今後の経営について	

調 査 事 項	回 答 率
1. 牛が好きでやめられない	44.4%
2. 今のところもうからないので増頭を見合せている	38.9
3. 今後増頭する	22.2
4. 増頭の場合、飼料基盤は自分の土地である	22.2
5. 増頭したいが労力が不足する	16.7
6. 増頭したいが飼料基盤がない	11.1
7. 増頭したいが資金がない	11.1
8. 放牧地があれば増頭したい	11.1
9. 稲わらの確保が困難である	55.6

(牛飼奨励事業該当農家18戸)

## ま と め

この調査は高齢者労働力の活用による繁殖牛の生産活動について、国の試験研究補助金（総合助成）を受けて実施したもので、飯石郡赤来町において「老人牛飼奨励事業」の補助金を受けている高齢者（65才以上）18名、18戸の経営実態について調査を行った。その結果は次の様であった。

飼養規模17頭の農家1戸を除外した17戸の平均飼養頭数は2.59 ± 0.94頭で、1頭当りの平均子牛販売価格が290千円、1戸当りの子牛販売による平均粗収益は737千円であった。

一方、意向調査による結果について、「牛飼奨励事業があるためにたのしみが増えた」としている者が55.6%、「奨励金が増額になれば増頭してもよい」が50.0%となっており、更に「今後もこの事業を継続してもらいたい」が83.3%であった。しかし、「この事業に満足している」と答えた農家は僅かに22.2%であった。

また、「放牧地がもっとあれば増頭したい」とする農家は全体の11.1%で、放牧地がなくて増頭できない農家は比較的少ないようであった。一方、稲わらの確保については「困難である」とする農家が55.6%で、半分以上の農家が牛を飼養しながら稲わらの確保に頭を痛めており、この地域においても肉用牛振興の上でも大きな問題をかかえる結果になっていることが推察された。